

様式第 11 号

博士論文審査結果報告書

令和 5 年 1 月 19 日

神奈川県立保健福祉大学大学院
保健福祉学研究科長 殿

博士論文審査員

主査	宮芝 智子
副査	新保 幸男
副査	城川 美佳

博士論文審査及び最終試験の結果について、次のとおり報告します。

申請者氏名	中村 拓人	学籍番号	61920002
論文題目	自閉スペクトラム症児の疾患特異的参加測定ツール ：開発と実証研究		
審査年月日	令和 5 年 1 月 12 日		
論文審査及び 最終試験結果	<div>合格</div> ・ 不合格		
添付書類	1 博士論文審査及び最終試験の結果の要旨（様式第 12 号） 2 論文の要旨（様式第 8 号）		

博士論文審査及び最終試験の結果の要旨

氏 名	中村 拓人
論文題目	自閉スペクトラム症児の疾患特異的参加測定ツール：開発と実証研究
論文審査員	主 査 宮芝 智子 副 査 新保 幸男 副 査 城川 美佳
<p>【論文審査の結果の要旨】</p> <p>自閉症スペクトラム症（ASD）児の早期支援が重要視され、その成果として参加の改善が求められている一方、ASD 児の障害特性を考慮した利用可能な参加測定ツールは開発されていない。そこで本研究は、ASD 児のための疾患特異的な参加測定ツールの開発と参加予測モデルの構築を目的とした。</p> <p>研究 1 では、ナラティブレビューによる項目開発と専門家への面接による内容的妥当性の検証を行い、48 から 72 ヶ月の ASD 児を対象とした「こどもの参加質問紙（POP）」を構成する 8 ドメイン 51 質問項目を特定した。研究 2 では、対象年齢を 36 から 83 ヶ月に拡大し、専門家、養育者への面接による内容的妥当性の検証を行い、6 ドメイン 36 質問項目からなる「改訂版こども参加質問紙（POP2）」を作成した。研究 3 では、児童発達支援あるいは医療機関で療育サービスを利用している ASD 児の養育者を対象とした質問紙調査を実施し、尺度開発および内容妥当性、構造的妥当性、構成概念妥当性、内的整合性を検証した。結果、一部、基準に満たないものの、高い信頼性・妥当性を有する POP2 が開発された。POP2 は、ASD 児に特徴的な参加の状態を示す 34 項目と 7 因子から構成される。研究 4 では、スコア分布の比較を通して POP2 の解釈可能性を検証した。結果、年齢群毎の有意差が認められなかった一方で、標準知能群や知的障害群のスコアが境界知能群よりも有意に低いこと、及び POP2 が ASD 児と ASD の診断を有さない神経発達症児を識別する十分な感度を有することが示された。研究 5 では、ASD 児の参加予測モデルを構築し、SEM によるモデル検証を実施した。結果、良好な適合度を示す最終モデルが構築され、家族機能が参加に強い影響を与えること、感覚処理障害が家族機能を介して間接的に参加に影響することが示唆された。</p> <p>POP2 は、COSMIN の推奨事項を全てクリアして開発され、活用可能性の高い有用な尺度である。また、POP2 の活用は、多職種連携やホリスティックな対象理解の促進、当事者視点をとりいれたエビデンスの構築等、保健福祉学に多大な貢献をもたらしているものである。</p> <p>以上より、博士学位論文としての水準を十分に満たしていると判定した。</p>	

【最終試験の結果の要旨】

博士論文審査および最終試験は、令和 5 年 1 月 12 日 16 時から実施した。最初に、申請者の大学院生より「自閉スペクトラム症児の疾患特異的参加測定ツール：開発と実証研究」の研究概要に関する約 25 分間のプレゼンテーションがあり、その後、主査 1 名、副査 2 名により、約 45 分間の口頭試問を行った。

口頭試問では、研究背景、研究デザイン、データ分析方法と結果の解釈、研究の限界と今後の課題、開発された尺度の特徴と意義、研究の発展可能性、用語や図表の適切性、論文の一貫性等について質問がなされた。申請者は質問に対して、全ての確、誠実に回答し、さらに研究結果の解釈や発展可能性について、臨床経験や研究プロセスで得た知見に基づき、幅広い視点から自己の意見を述べていた。

また、博士後期課程在籍中には、コロナ禍による研究活動の制限やミドルクライシスに直面しながらも、研究活動を通して培った人脈や信頼関係を大事にすると共に自己を客観視し研究に取り組んできたことが成果へと結びついたことが述べられ、研究の継続および現場や教育への成果の還元に意欲的に取り組む姿勢がみられた。保健福祉学の学位を取得する者として大いに期待できる人材である。

以上をもって総合的に評価し、審査員全員一致により、最終試験を合格とした。